

各 位

こんにちは、技術士塾の小松英雄です。論文添削講座の詳細案内をダウンロードしていただきありがとうございます。HPでの講座案内だけではすべての情報を掲載できていませんので、正式に申し込む前に詳しい情報を述べておきます。しっかり読んでいただき何か質問等あれば遠慮なくお問い合わせください。問い合わせメール：info@gi-jyutsusushi-jyuku.com または、携帯電話：090-4231-0716。

2023年度（令和5年度）の論文添削講座の詳細は次のとおりです。4週間ピッチで論文を提出していただく「4W10コース（10回添削のコース）」と「4W08コース（8回添削コース）」、「4W06コース（6回添削コース）」、3週間ピッチで論文を提出していただく「3W12コース（12回添削のコース）」「3W10コース（10回添削のコース）」「3W08コース（8回添削コース）」「3W06コース（6回添削コース）」です。コースによって申込期間が違いますから、HPで確認して申し込んでください。申込については、4W10コースは8月31日まで、4W08コースは10月31日まで、4W06コースは12月31日まで、3W12コースは10月4日まで、3W10コースは11月15日まで、3W08コースは12月27日まで、3W06コースは2月7日までが申込期間です。

新型コロナの影響で2019年度に比べ2020年度の受験者が4000名減りましたが、2021年度は少し戻りました。受験日の変更などがなければ、元々の状態に戻るでしょう。そして、択一式が記述式に変わり、問題文が変わったため合格率は10%程度で平成の時より下がっています。しかし、これは合格したいあなたにとってはチャンスなのです。国家資格の場合、ある一定数の合格者数は必要です。しっかり勉強をしておけば、合格する確率は高くなってきます。ほかの受験者より少しわかりやすく、少し具体的に書くことです。書くぜひこのチャンスを生かすために受験対策は早く始めましょう。

もし、2022年度の受験をしなかったり、受験したとしても必須Ⅰが3枚中2枚以下しか書けなかったとか、選択Ⅲがほぼ1枚以下しか書けなかったとか、2022年度に合格できないことがほぼ分かっているなら、まだ筆記試験の結果が分からずに来年度の準備ができない方よりもずーっと早いスタートが切れるのです。11月初旬の筆記発表で残念な人や3月の最終発表で残念な人より、今まさに有利な状態なのです。毎年、受験申し込みをしてから受験対策のスタートを切って、「もっと早く始めていれば」と思っているならぜひ思い切って今スタートしましょう。

技術士塾の論文添削コースの方の中には、2つ目、3つ目を狙っている方も多いです。最近は60歳を超えてから再挑戦する方も増えています。そういう方は合否など関係なく9月から論文添削コースを受講する方が多いです。

「小さいことを積み重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道」（イチロー）

私も合格した年には、失敗した反省もしましたし、心を入れ替えて取り組もうと思いましたが。でも何より合格できた秘訣は、すぐに行動したことだと思います。合格する人は、その合格した年の行動が素早いのです。今ならだれより2023年度のスタートを早く切れます。

「論文添削講座4W10コース（10回添削コース）」

4W10コースとほかのコースとの違いは、提出ピッチと添削回数、始めるタイミングの違いだと理解して下さい。安いコースだからと参加費で決めてはいけません。あなたが合格するために必要だと考えるコースを選択してください。

募集期間：2022年8月18日（木）から8月31日（水）まで

提出期間：2022年9月1日から2023年6月1日（最終提出日）まで

提出日（必着日）が1カ月に1回あります。提出日（必着日）は下記のとおりです。この締め切りを決めるということはとても重要です。締め切りを決めると、どうしても「忙しいから・・・」などの理由を付けてやらなければいけないことを先延ばしする習慣をやめる効果があります。もちろん先行して提出するのはOKです。提出日は守るという決意が大切です。提出日に遅れても添削をしますが、**最終締切日だけは守って下さい。**それ以降に提出して添削してお返ししても試験に役立つことにはなりません。途中で入塾する方は、必ず自分で提出日を決めて下さい。また**2つ以上の論文（知識問題を除く）をまとめて提出することも論文能力がつかないということがハッキリ分かっていますので禁止します。**論文提出の間隔は、**中10日以上あけて下さい。**例えば1月1日に提出した方は、1日目2日、2日目3日・・・10日目11日ですから、1月12日に次の論文を提出可能です。したがって、5/21に提出（私が受領）した方は中10日を空けて6/1の最終締め切り日に受領できますが、**5/22から5/31に提出（私が受領）した方は中10日空かないので、最終提出日の6/1に提出（受領）できません。**ただし、提出日とは私が受領した日のことで、ポストに投函した日などではありませんのでご了承ください。

提出日（受領日） 9/1、10/1、11/1、12/1、1/6、2/1、3/1、4/1、5/1、6/1（最終提出日）

参加費：初めて論文添削コースを受講する方 135,000円

過去の塾生 110,000円

（論文添削コースの参加者を塾生と呼んでいます。）

参加費はあなたが越えなければならないハードルです。高いと感じるか、普通だと感じるかはそれぞれの方で違いますが、私は必要な自己投資だと思っています。自腹を切るとその投資分を回収しようと思いき、継続的に勉強ができます。あきらめなくなって、最後まで頑張れるんです。参加費は一度振り込むとお返しできません。しっかり決心してから振り込んでください。

添削回数：10回

今から始めることをどう感じましたか？「大変だ！」と感じた方もいるかもしれませんが、けっこう「早い方が有利だ！」と思った方もいるかもしれませんね。あなたもきっと仕事をしながら論文を提出していくこととなりますが、簡単ではありません。技術士になりたいという強い思いがないと論文の添削を受けて合格を手にするなどできません。「不合格が分かってから」とか、「仕事が暇になってから」と

か、「もうちょっとすれば・・・」と思っている間に年末年始、年度末と季節が通り過ぎて行った経験がきっとあるでしょう。できる限り早く対策を始めるべきです。「不合格が分かってから」とか、「暇になったら」「4月になってから」と後回しにしてタイミングを逃さないでください。心の準備を待つのではなく、とにかくスタートしてしまうという決心が大切なのです。

技術士塾の論文添削コースは、技術士になるため全力を出せるように熟慮した回数やタイミングになっています。やってやれない回数ではないし、でも簡単にはできない微妙な回数です。あなたにとって一番厳しい時期に始めれば、あとは流れに乗れます。厳しいタイミングで始めて「うまくいく自信がない」という方は、いつ始めても自信がないのです。合格する自信がないので始められないのです。もうあなたには分かっているはずですよ。自信のあるタイミングなどありません。

あなたの仕事でも、工期（最終期日）と完成物（どこまでやるのか）が決められているはずですよ。自分で自由に工期など決められませんね。とても間に合わないと思った工程でも、工程表や工法などを工夫して完成してきたはずですよ。仕事でできるのに、自腹を切ってやると決めたことができないはずはありません。10回のカウントの仕方について説明します。同じ問題でも点数が低いので合格点になるまで3回提出添削した場合も3回とカウントします。

指導内容：下記の通り

添削論文の問題はあなたが自分で考えます。過去の問題を自分で分析し、予想問題を作る方もいますが、過去問題そのもので良いと思います。ただし、2019年から必須問題が択一式から記述式になりました。必須問題についても選択問題については2019年から試験が変わったので、2019年から2022年の過去問題が重要です。問題を作る試験官も必ず過去問題を参考にしてしているのです。あなたも過去問題を分析して、自分がそのときに添削してほしいものを提出してください。

知識問題（600字×1枚）は2問題分（1枚+1枚の論文）を1回としてカウントしますから、知識問題は、2問題分をまとめて、1回として提出してください。応用問題（600字×2枚）は、1問題（2枚の論文）を1回としてカウントします。課題問題（600字×3枚）は、必須問題でも選択問題でも1問題（3枚の論文）を1回としてカウントします。10回のカウントのうち、知識問題を1回（2問題分）と応用問題を1回（1問題分）は必ず提出してください。課題問題も必須でも選択でもどちらでもいいので、1回（1問題分）は必ず提出してください。あとの7回はどの問題でもOKです。

合格点は30点（50点満点）です。29点以下の場合、同じ問題を修正して再提出することでもOKですし、30点以上でも自分で納得するために修正・再提出でもOKです。もちろん次回は別の問題について論文を提出してもらってもOKです。どのような形で提出しても提出回数にカウントされます。それだけ提出論文は真剣に取り組んでください。時間がないからとか忙しいからと言っていい加減に書いて提出すると、それだけ論文能力のアップ効果が薄くなります。

論文添削にかかる時間については、あなたが手書きの論文を送付してから私や認定講師が受けとるまでの日数（A日）と添削する日数（B日）、そして送り返す日数（C日）がかかります。私や認定講師が添削に必要な日数（B日）は7日程度です。ただし病気や年末年始、GWなどの長期休暇中、出張中などがあるともっと時間がかかる場合があります。三重県に住んでいる私が添削した場合には大阪や東京な

どに住んでいる方では、あなたが送付してからあなたの手元に添削論文が返ってくるまで13、14日程度です。したがって、提出した論文が返ってくるのを待って修正してまた提出するのは非効率です。1つの論文を提出したら、2つ目の論文に取りかかり、2つの論文を交互に提出しながら仕上げていくことが効率的です。

2023年度の添削論文は、2023年度の塾生（論文添削コースの参加者）のみに「塾生のページ」で順次公開します。へたくそな論文で恥ずかしいとか考える必要はありません。最終目標は「技術士になる」ということですから、他の方の論文は必ず参考になります。私が提唱している「他人の脳を借りる」ということです。塾生はすべて仲間です。あなたの論文が、他の方の論文能力を10点あげるのに役立ち、あなたも他の方の論文のおかげで5点上がればOKだということです。どんな論文でも、論文にはエキスがたくさん詰まっています。ただし論文はたくさんあるので、すべての論文を精読する必要はありません。自分がピーンと感じる論文だけで十分効果はあります。名前などを特定できないようにニックネームで塾生への公開のほか、セミナーや講座、出版などで利用させていただきます。なお、自分では同じようにまねて書いたと思っても接続語ひとつ違っても大きく点数に差が出るということを理解しておいてください。私や認定講師も神さまではないので、まったく同じ論文でも提出時期や提出者が違えば同じ点数をつけることなどできません。

塾生のページは、10月中旬ぐらいから2023年度の筆記試験当日までオープンします。添削論文は1カ月に1回程度追加更新します。添削論文はPDF形式でダウンロードできますが、あなた以外の方に見せたり利用させることはできません。守秘義務を守ってください。塾生のページに入るには、ユーザー名とパスワードがいます。

それから、映像コースは必ず視聴してください。勉強方法の解説をしています。どの部門、どの科目の方でも参考になるように解説しています。そして、毎週金曜日に配信なので勉強のペースメーカーとして役立ちます。

添削者：私と認定講師が添削します。

当塾には私（ヒーローこと小松英雄）以外の認定講師がいます。認定講師は技術士ならばだれでもなれるというものではありません。少なくとも私と濃いつながりを持った方（私が信頼できる方）で、添削能力が私と同等かそれ以上の方です。そしてその講師が添削した分すべてに私は目を通しています。大部分は私が添削していますが、昨年度は2名の方が認定講師に添削してもらいました。412論文のうち11論文になります。このように、相談の上私以外の認定講師があなたの論文のすべての添削を担当することもあります。

塾生への特典：すべての塾生（論文添削コース参加者）に共通です。

1. 経歴票、業務詳細の添削（業務詳細の無料添削は初めての塾生のみ）

初めて塾生になった方は、経歴票・業務詳細を無料で添削します。経歴票には、代表的な業務を1例詳細に記述しなければいけません。この経歴票は、口頭試験ときに試験官の手元にある重要な資料の一つです。その中の業務詳細からたくさん質問をされます。業務詳細の内容がちゃんと試験官に伝わらない場合には「こんな業務詳細しか書けないようではダメ！」とほぼ不合格が決定してしまいます。口頭試験の時

間が20分しかないので、ダメな業務詳細を口述で補うことはほとんど不可能です。申込書・経歴票を書くことから試験が始まっているのです。一度提出した経歴票は変更できないので、必ず添削を受けましょう。過去の塾生はほとんど業務詳細については完成していると思いますので、新しい業務の添削はしません。過去の塾生でも業務詳細を仕上げていない方がいるなら、それは自分から無料で受けられるチャンスを放棄したからです。したがって、過去の塾生で業務詳細について添削を希望する方からは別途添削料（1万円）をいただきます。業務詳細の合格者のみ申込書をチェックします。

ここで注意しておきますが、文字だけで書くという業務詳細はとても難しいです。簡単にはできません。2013年から2022年度の実績では論文のとてもうまい方で2回、最高の修正回数は9回です。業務詳細よりも論文の添削を優先しているため期間も最低1か月から3カ月は必要です。**業務詳細の最終締切日は4月10日にします。**業務詳細が完成していなくても4月11日以降に提出することはできません。1月から業務詳細の添削を始めます。

2. 電話、Line（ライン）またはskype（スカイプ）による相談、指導

1カ月に1回程度、論文添削後に音声による個人指導を行います。基本的には添削をした講師から直接音声指導を受けますが、都合により代わる場合もあるかもしれません。skypeについては、導入方法は正式な申し込み後にお知らせします。ただしパソコンやインターネットの環境などでskypeを導入できない場合もありますから、私がskypeの導入を保証するものではありません。もし導入できない場合やパソコンが不得意な方のために電話で指導も行います。skypeには通信料がかかりますが、電話での指導の場合は通話料がかかるので、塾生から認定講師へ電話をかけていただく場合もあります。Line（ライン）もiphoneなどで利用できるwi-fiを使った無料電話です。Lineについては各自導入して下さい。

3. メールや電話での指導

基本はメールでの質問等への回答になると思います。できるだけ早く返信するようにしますが、講師の都合もありますからすぐに返事が返ってくるとは限りません。私の携帯へは常識的な時間であれば（深夜や早朝でない限り）自由に電話してください。ただし、私も電車に乗ったり、車の運転をしたり、1日セミナーに出たりすることがありますので、すぐに出られない場合もあります。

4. 塾生の掲示板と塾生のページへの参加

塾生だけが参加できる掲示板があります。電話相談などの予約に使っています。

この**掲示板や塾生のページ**というのがホームページにあります。パスワードが必要です。このパスワードをお教えできるのは、本年度の塾生と講師だけです。塾生のページはたくさんの情報や合格論文が詰まっています。私は塾生のページだけでも参加費以上の価値があると思っています。

5. 過去の添削論文

2023年度版（2022年度に添削した）添削論文412論文をダウンロードできるページをお知らせします。過去の添削論文は、合格への道しるべだと思って下さい。基本的な利用の仕方を述べます。

①教科書としての利用

いくつかの合格論文を分析して論文の書き方のパターンを理解することです。論文の書き方には個人個人のクセが出ます。小学校から作文を書き始めていろいろな文章を書いてきたので、知らず知らず自分の個性が出ます。決して悪いことではありませんし、あなたと同じような書き方をする論文は読みやすく、理解が早くなります。自分が一番じっくりくると感じる論文の構成の仕方が分かると、論文能力が1段階も2段階もアップします。そういう論文を探し出し、自分の論文の基礎固めをして下さい。

②参考書としての利用

添削論文には専門知識など技術士に必要な知識が詰まっています。あなたも論文を書くときには、書きたい内容に合わせて国交白書やインターネット、業界紙などから重要だと思うところを資料として集め、すべてに目を通し論文にしますね。何十枚という資料と数週間という時間の結晶が3枚の論文です。それが412論文もあります。この添削論文で分からないところやもっと深く知りたいときにインターネットなどを利用したら良いと思います。すべての論文を印刷して目を通す必要はありません。自分でペーンときた論文を印刷して参考にして下さい。点数が高い低いはまったく関係ありません。すべての論文が知識の宝庫です。

③読んで、パクッて、モノにして！

気にいった論文は印刷して、声を出して読んで下さい。それから何度か写し書きして下さい。集中することが大切ですが、知らないうちに論文の書き方、知識が自分のものになっています。「まねる＝学ぶ」です。「門前の小僧習わぬ経を読む」や「読書百遍意自ずから通ず」など昔から言われていることは、本当なのです。私も実践して飛躍的に論文能力が上がりましたし、合格した塾生が実践してきたことです。

部門や科目が違って合格論文の書き方には多くの共通する事項があります。「読みやすい」「正しい日本語」「イメージしやすい」など・・・あなたも部門や科目にこだわらず積極的に利用して下さい。

④暗記では合格できない

①から③については、単純に論文を暗記したら合格できるということではありません。暗記で合格できるような問題は出題されません。ここに気がついてください。もちろん知識は必要です。あなたが必要だと思った知識は必要ですが、暗記では合格できません。大切なことは「考え方や書き方」です。合格論文は一文一文つながっているし、問題文に沿っています。読むだけで書いてある内容が頭に入ってくるんです。そんな論文を書けるように添削論文を利用して下さい。

6. 映像コースへの参加

2021年度から映像コースを無料にしました。あなたが参考にするための勉強方法を視聴できます。部門や科目は違って役立つ話をしています。映像コースで話しをしているすべてを理解しないと合格できないと思わないでください。あなたの合格に必要なポイントをひとつ、ふたつ見つけてください。

ほかの方の添削論文(他人の脳)や映像コースで解説している添削論文をすべて勉強しないといけないことなどありません。あなたの合格に必要な論文は1から5つ程度です。見つけ出す必要はありません。必ず必然的に出会います。

「論文添削講座4W08コース（8回添削コース）」

4W08コースとほかのコースとの違いは、提出ピッチと添削回数、始めるタイミングの違いだと理解して下さい。安いコースだからと参加費で決めてはいけません。あなたが合格するために必要だと考えるコースを選択してください。

募集期間：2021年8月18日（木）から10月31日（月）まで

提出期間：2022年9月1日から2023年6月1日（最終提出日）まで

提出日（必着日）が1カ月に1回あります。提出日（必着日）は下記のとおりです。この締め切りを決めるということはとても重要です。締め切りを決めると、どうしても「忙しいから・・・」などの理由を付けてやらなければいけないことを先延ばしする習慣をやめる効果があります。もちろん先行して提出するのはOKです。提出日は守るという決心が大切です。提出日に遅れても添削をしますが、遅れたから添削をしないなどということはありませんが、**最終締切日だけは守って下さい。**それ以降に提出して添削してお返ししても試験に役立つことにはなりません。途中で入塾する方は、必ず自分で提出日を決めて下さい。また**2つ以上の論文（知識問題を除く）をまとめて提出することも論文能力がつかないということがハッキリ分かっていますので禁止します。論文提出の間隔は、中10日以上あけて下さい。**例えば1月1日に提出した方は、1日目2日、2日目3日・・・10日目11日ですから、1月12日に次の論文を提出可能です。したがって、5/21に提出（私が受領）した方は中10日を空けて6/1の最終締め切り日に受領できますが、5/22から5/31に提出（私が受領）した方は中10日空かないので、**最終提出日の6/1に提出（受領）できません。**ただし、提出日とは私が受領した日のことで、ポストに投函した日などではありませんのでご了承ください。

提出日（受領日） 9/1、10/1、11/1、12/1、1/6、2/1、3/1、4/1、5/1、6/1（最終提出日）

上記提出日のうち**8回提出**することができます。

参加費：初めて論文添削コースを受講する方 120,000円

過去の塾生 100,000円

（論文添削コースの参加者を塾生と呼んでいます。）

参加費はあなたが越えなければならないハードルです。高いと感じるか、普通だと感じるかはそれぞれの方で違いますが、私は必要な自己投資だと思っています。自腹を切るとその投資分を回収しようと思ひ、継続的に勉強ができます。あきらめなくなつて、最後まで頑張れるんです。

添削回数：8回

今から始めることをどう感じましたか？「大変だ！」と感じた方もいるかもしれませんが、けっこう「早い方が有利だ！」と思った方もいるかもしれませんね。この4W08コースは回数にこだわったのではなく、受験対策を始める時期にこだわりました。あなたもきっと仕事をしながら論文を提出していくこ

とになりますが、簡単ではありません。技術士になりたいという強い思いがないと論文の添削を受けて合格を手にすることなどできません。「仕事が暇になってから」とか、「もうちょっとすれば・・・」と持っている間に年末年始、年度末と季節が通り過ぎて行った経験がきっとあるでしょう。できる限り早く対策を始めるべきです。「暇になったら」「4月になってから」と後回しにしてタイミングを逃さないでください。心の準備を待つのではなく、とにかくスタートしてしまうという決意が大切なのです。

技術士塾の論文添削コースは、技術士になるため全力を出せるように熟慮した回数やタイミングになっています。やってやれない回数ではないし、でも簡単にはできない微妙な回数です。あなたにとって一番厳しい時期に始めれば、あとは流れに乗れます。厳しいタイミングで始めて「うまくいく自信がない」という方は、いつ始めても自信がないのです。合格する自信がないので始められないのです。もうあなたには分かっているはずです。自信のあるタイミングなどありません。

あなたの仕事でも、工期（最終期日）と完成物（どこまでやるのか）が決められているはずですが、自分で自由に工期など決められませんね。とても間に合わないと思った工程でも、工程表や工法などを工夫して完成してきたはずですが、仕事でできるのに、自腹を切ってやると決めたことができないはずはありません。8回のカウントの仕方について説明します。同じ問題でも点数が低いので合格点になるまで3回提出添削した場合も3回とカウントします。

指導内容：下記の通り

添削論文の問題はあなたが自分で考えます。過去の問題を自分で分析し、予想問題を作る方もいますが、過去問題そのもので良いと思います。ただし、2019年から必須問題が択一式から記述式になりました。必須問題についても選択問題については2019年から試験が変わったので、2019年から2022年の過去問題が重要です。問題を作る試験官も必ず過去問題を参考にしているのです。あなたも過去問題を分析して、自分がそのときに添削してほしいものを提出してください。

知識問題（600字×1枚）は2問題分（1枚＋1枚の論文）を1回としてカウントしますから、知識問題は、2問題分をまとめて、1回として提出してください。応用問題（600字×2枚）は、1問題（2枚の論文）を1回としてカウントします。課題問題（600字×3枚）は、必須問題でも選択問題でも1問題（3枚の論文）を1回としてカウントします。8回のカウントのうち、知識問題を1回（2問題分）と応用問題を1回（1問題分）は必ず提出してください。課題問題も必須でも選択でもどちらでもいいので、1回（1問題分）は必ず提出してください。あとの5回はどの問題でもOKです。

合格点は30点（50点満点）です。29点以下の場合、同じ問題を修正して再提出することでもOKですし、30点以上でも自分で納得するために修正・再提出でもOKです。もちろん次回は別の問題について論文を提出してもらってもOKです。どのような形で提出しても提出回数にカウントされます。それだけ提出論文は真剣に取り組んでください。時間がないからとか忙しいからと言っていい加減に書いて提出すると、それだけ論文能力のアップ効果が薄くなります。

論文添削にかかる時間については、あなたが手書きの論文を送付してから私や認定講師が受けとるまでの日数（A日）と添削する日数（B日）、そして送り返す日数（C日）がかかります。私や認定講師が添削に必要な日数（B日）は7日程度です。ただし病気や年末年始、GWなどの長期休暇中、出張中など

があるともっと時間がかかる場合があります。三重県に住んでいる私が添削した場合には大阪や東京などに住んでいる方では、あなたが送付してからあなたの手に添削論文が返ってくるまで13、14日程度です。したがって、提出した論文が返ってくるのを待って修正してまた提出するのは非効率です。1つの論文を提出したら、2つ目の論文に取りかかり、2つの論文を交互に提出しながら仕上げていくことが効率的です。

2023年度の添削論文は、2023年度の塾生（論文添削コースの参加者）のみに「塾生のページ」で順次公開します。へたくそな論文で恥ずかしいとか考える必要はありません。最終目標は「技術士になる」ということです。他の方の論文は必ず参考になります。私が提唱している「他人の脳を借りる」ということです。塾生はすべて仲間です。あなたの論文が、他の方の論文能力を10点あげるのに役立ち、あなたも他の方の論文のおかげで5点上がればOKだということです。どんな論文でも、論文にはエキスがたくさん詰まっています。ただし論文はたくさんあるので、すべての論文を精読する必要はありません。自分がピンと感ずる論文だけで十分効果はあります。名前などを特定できないようにニックネームで塾生への公開のほか、セミナーや講座、出版などで利用させていただきます。なお、自分では同じようにまねて書いたと思っても接続語ひとつ違っても大きく点数に差が出るということを理解しておいてください。私や認定講師も神さまではないので、まったく同じ論文でも提出時期や提出者が違えば同じ点数をつけることなどできません。

塾生のページは、10月中旬ぐらいから2023年度の筆記試験当日までオープンします。添削論文は1カ月に1回程度追加更新します。添削論文はPDF形式でダウンロードできますが、あなた以外の方に見せたり利用させることはできません。守秘義務を守ってください。塾生のページに入るには、ユーザー名とパスワードがいます。

それから、映像コースは必ず視聴してください。勉強方法や論文の解説をしています。どの部門、どの科目の方でも参考になるように解説しています。そして、毎週金曜日に配信なので勉強のペースメーカーとして役立ちます。

添削者：私と認定講師が添削します。

当塾には私（ヒーローこと小松英雄）以外の認定講師がいます。認定講師は技術士ならばだれでもなれるというものではありません。少なくとも私と濃いつながりを持った方（私が信頼できる方）で、添削能力が私と同等かそれ以上の方です。そしてその講師が添削した分すべてに私は目を通して見ます。大部分は私が添削していますが、昨年度は2名の方が認定講師に添削してもらいました。412論文のうち11論文になります。このように、相談の上私以外の認定講師があなたの論文のすべての添削を担当することもあります。

塾生への特典：

基本的に4W10コースと同じです。4W10コースの内容をよく読んで下さい。

「論文添削講座4W06コース（6回添削コース）」

4W06コースとほかのコースとの違いは、提出ピッチと添削回数、始めるタイミングの違いだと理解して下さい。安いコースだからと参加費で決めてはいけません。あなたが合格するために必要だと考えるコースを選択してください。

募集期間：2020年8月18日（木）から12月31日（金）まで

提出期間：2022年9月1日から2023年6月1日（最終提出日）まで

提出日（必着日）が1カ月に1回あります。提出日（必着日）は下記のとおりです。この締め切りを決めるということはとても重要です。締め切りを決めると、どうしても「忙しいから・・・」などの理由を付けてやらなければいけないことを先延ばしする習慣をやめる効果があります。もちろん先行して提出するのはOKです。提出日は守るという決心が大切です。提出日に遅れても添削をしますが、遅れたから添削をしないなどということはありませんが、**最終締切日だけは守って下さい。**それ以降に提出して添削してお返ししても試験に役立つことにはなりません。途中で入塾する方は、必ず自分で提出日を決めて下さい。また**2つ以上の論文（知識問題を除く）をまとめて提出することも論文能力がつかないということがハッキリ分かっていますので禁止します。論文提出の間隔は、中10日以上あけて下さい。**例えば1月1日に提出した方は、1日目2日、2日目3日・・・10日目11日ですから、1月12日に次の論文を提出可能です。したがって、5/21に提出（私が受領）した方は中10日を空けて6/1の最終締め切り日に受領できますが、5/22から5/31に提出（私が受領）した方は中10日空かないので、**最終提出日の6/1に提出（受領）できません。**ただし、提出日とは私が受領した日のことで、ポストに投函した日などではありませんのでご了承ください。

提出日（受領日） 9/1、10/1、11/1、12/1、1/6、2/1、3/1、4/1、5/1、6/1（最終提出日）

上記提出日のうち**6回提出**することができます。

参加費：初めて論文添削コースを受講する方 105,000円

過去の塾生 90,000円

（論文添削コースの参加者を塾生と呼んでいます。）

参加費はあなたが越えなければならないハードルです。高いと感じるか、普通だと感じるかはそれぞれの方で違いますが、私は必要な自己投資だと思っています。自腹を切るとその投資分を回収しようと思いき、継続的に勉強ができます。あきらめなくなって、最後まで頑張れるんです。

添削回数：6回

今から始めることをどう感じましたか？「大変だ！」と感じた方もいるかもしれませんが、けっこう「早い方が有利だ！」と思った方もいるかもしれませんね。この4W06コースは回数にこだわったのではなく、受験対策を始める時期にこだわりました。あなたもきっと仕事をしながら論文を提出していくこ

とになりますが、簡単ではありません。技術士になりたいという強い思いがないと論文の添削を受けて合格を手にすることなどできません。「仕事が暇になってから」とか、「もうちょっとすれば・・・」と持っている間に年末年始、年度末と季節が通り過ぎて行った経験がきっとあるでしょう。できる限り早く対策を始めるべきです。「暇になったら」「4月になってから」と後回しにしてタイミングを逃さないでください。心の準備を待つのではなく、とにかくスタートしてしまうという決意が大切なのです。

技術士塾の論文添削コースは、技術士になるため全力を出せるように熟慮した回数やタイミングになっています。やってやれない回数ではないし、でも簡単にはできない微妙な回数です。あなたにとって一番厳しい時期に始めれば、あとは流れに乗れます。厳しいタイミングで始めて「うまくいく自信がない」という方は、いつ始めても自信がないのです。合格する自信がないので始められないのです。もうあなたには分かっているはずです。自信のあるタイミングなどありません。

あなたの仕事でも、工期（最終期日）と完成物（どこまでやるのか）が決められているはずですが、自分で自由に工期など決められませんね。とても間に合わないと思った工程でも、工程表や工法などを工夫して完成してきたはずですが、仕事でできるのに、自腹を切ってやると決めたことができないはずはありません。6回のカウントの仕方について説明します。同じ問題でも点数が低いので合格点になるまで3回提出添削した場合も3回とカウントします。

指導内容：下記の通り

添削論文の問題はあなたが自分で考えます。過去の問題を自分で分析し、予想問題を作る方もいますが、過去問題そのもので良いと思います。ただし、2019年から必須問題が択一式から記述式になりました。必須問題についても選択問題については2019年から試験が変わったので、2019年から2022年の過去問題が重要です。問題を作る試験官も必ず過去問題を参考にしているのです。あなたも過去問題を分析して、自分がそのときに添削してほしいものを提出してください。

知識問題（600字×1枚）は2問題分（1枚＋1枚の論文）を1回としてカウントしますから、知識問題は、2問題分をまとめて、1回として提出してください。応用問題（600字×2枚）は、1問題（2枚の論文）を1回としてカウントします。課題問題（600字×3枚）は、必須問題でも選択問題でも1問題（3枚の論文）を1回としてカウントします。6回のカウントのうち、知識問題を1回（2問題分）と応用問題を1回（1問題分）は必ず提出してください。課題問題も必須でも選択でもどちらでもいいので、1回（1問題分）は必ず提出してください。あとの3回はどの問題でもOKです。

合格点は30点（50点満点）です。29点以下の場合、同じ問題を修正して再提出することでもOKですし、30点以上でも自分で納得するために修正・再提出でもOKです。もちろん次回は別の問題について論文を提出してもらってもOKです。どのような形で提出しても提出回数にカウントされます。それだけ提出論文は真剣に取り組んでください。時間がないからとか忙しいからと言っていい加減に書いて提出すると、それだけ論文能力のアップ効果が薄くなります。

論文添削にかかる時間については、あなたが手書きの論文を送付してから私や認定講師が受けとるまでの日数（A日）と添削する日数（B日）、そして送り返す日数（C日）がかかります。私や認定講師が添削に必要な日数（B日）は7日程度です。ただし病気や年末年始、GWなどの長期休暇中、出張中など

があるともっと時間がかかる場合があります。三重県に住んでいる私が添削した場合には大阪や東京などに住んでいる方では、あなたが送付してからあなたの手元に添削論文が返ってくるまで13、14日程度です。したがって、提出した論文が返ってくるのを待って修正してまた提出するのは非効率です。1つの論文を提出したら、2つ目の論文に取りかかり、2つの論文を交互に提出しながら仕上げていくことが効率的です。

2023年度の添削論文は、2023年度の塾生（論文添削コースの参加者）のみに「塾生のページ」で順次公開します。へたくそな論文で恥ずかしいとか考える必要はありません。最終目標は「技術士になる」ということです。他の方の論文は必ず参考になります。私が提唱している「他人の脳を借りる」ということです。塾生はすべて仲間です。あなたの論文が、他の方の論文能力を10点あげるのに役立ち、あなたも他の方の論文のおかげで5点上がればOKだということです。どんな論文でも、論文にはエキスがたくさん詰まっています。ただし論文はたくさんあるので、すべての論文を精読する必要はありません。自分がピンとを感じる論文だけで十分効果はあります。名前などを特定できないようにニックネームで塾生への公開のほか、セミナーや講座、出版などで利用させていただきます。なお、自分では同じようにまねて書いたと思っても接続語ひとつ違っても大きく点数に差が出るということを理解しておいてください。私や認定講師も神さまではないので、まったく同じ論文でも提出時期や提出者が違えば同じ点数をつけることなどできません。

塾生のページは、10月中旬ぐらいから2023年度の筆記試験当日までオープンします。添削論文は1カ月に1回程度追加更新します。添削論文はPDF形式でダウンロードできますが、あなた以外の方に見せたり利用させることはできません。守秘義務を守ってください。塾生のページに入るには、ユーザー名とパスワードがいます。

それから、映像コースは必ず視聴してください。勉強方法や論文の解説をしています。どの部門、どの科目の方でも参考になるように解説しています。そして、毎週金曜日に配信なので勉強のペースメーカーとして役立ちます。

添削者：私と認定講師が添削します。

当塾には私（ヒーローこと小松英雄）以外の認定講師がいます。認定講師は技術士ならばだれでもなれるというものではありません。少なくとも私と濃いつながりを持った方（私が信頼できる方）で、添削能力が私と同等かそれ以上の方です。そしてその講師が添削した分すべてに私は目を通して見ます。大部分は私が添削していますが、昨年度は2名の方が認定講師に添削してもらいました。412論文のうち11論文になります。このように、相談の上私以外の認定講師があなたの論文のすべての添削を担当することもあります。

塾生への特典：

基本的に4W10コースと同じです。4W10コースの内容をよく読んで下さい。

当塾はあなたのキャリアアップのお役にたてると思っています。

仲間と一緒に2023年度の技術士二次試験に合格しましょう。

技術士塾 塾長 ヒーローこと小松英雄